

海外安全対策情報第1四半期（2015年1月～3月）

1. 社会・治安情勢

特に政治的な要因による騒擾などは発生していない。現在、犯罪・暴動等の具体的な情報はないものの、不測の事態を避けるため、集会等が行われている場所にはなるべく近づかないようにし、もし異常を感じたら、速やかにその場から立ち去るようにすることが望ましい。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

フィジー警察の統計によると、2015年第1四半期（1月～3月）の犯罪認知件数は5,238件であった。これは、2014年同時期と比較して約25%の増加となっており、急激な増加傾向であるためこれまで以上に十分な注意が必要である。なお、2014年全体の犯罪認知件数は約2万件であり、過去10年で最多の犯罪認知件数となった2012年とほぼ同水準であることから、引き続き高い犯罪発生件数にあると考えられる。

フィジーで発生する犯罪の約5割がひったくり、スリ等窃盗や侵入強盗等となっており、引き続き大使館にも邦人の窃盗被害の報告が多数寄せられていることから、カメラ、携帯電話等の貴重品は人目に触れないように持ち歩き、マーケット、バスターミナル、イベント会場周辺等混み合う場所ではひったくりやスリに十分注意する必要がある。また、邦人住居への侵入強盗事案も発生していることから、周囲の状況、警備員の配置、扉や窓の安全等の確認を怠らないように十分注意する必要がある。

3. テロ・爆弾事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

以上